

ウェルシュ菌食中毒事例における PFGE（パルスフィールドゲル電気泳動）法の実施について

保健科学課 徳島 智子・重村 久美子

松田 正法・吉田 英弘

第 39 回九州衛生環境技術協議会

福岡市において、車両による移動営業で、チャーシュー串及びチャーシュー丼を原因食品とする比較的小規模のウェルシュ菌食中毒が発生した。本事例で分離されたウェルシュ菌の相同性比較のため実施したパルスフィールドゲル電気泳動（PFGE）法の有用性を確認したので報告する。

本事例で分離されたウェルシュ菌 16 株に対して PFGE 法を行った。分離株のうち、エンテロトキシン遺伝子陽性の 13 株が同じ遺伝子パターンを示し、同遺伝子陰性の 3 株は異なるパターンを示した。

ウェルシュ菌の型別法として Hobbs の抗血清が市販されているが、食中毒事例で分離した株が型別不能となることは少なくなく、今回の事例でもすべて型別不能だった。このような菌株の相同性の比較には、PFGE 法による DNA パターンの比較が有用であると考えられた。本事例では、検出されたウェルシュ菌 16 株のうち、エンテロトキシン遺伝子陽性の 13 株は食中毒の原因菌であり、同遺伝子陰性の 3 株は常在菌または別の由来のものと推測された。